（公財）中央果実協会
No.256

米国　過剰生産と他の果実との競争に影響されるリンゴ産業

FreshPlaza　2024年10月22日

今年はワシントン州のリンゴに関して昨年と様子がまったく異なるが、懸念と課題は残っている。ビバティエラ有機農場のクリス・フォード氏は、「昨年は市場に出回るリンゴが多過ぎ、生産者にとって本当にひどい年になった」と言う(以下「　」は同氏の話)。供給が需要を上回り、生産者価格は非常に低く、その結果、一部の生産者は廃業した。「正直なところ、店頭には今でも昨年からの貯蔵もののリンゴが出ており、供給過剰の状態は消費者にとっても良いことではない。」

競争

端的に言えば、ワシントン州のリンゴ産業は成長しすぎている。そこでは、結果面積の増加と貯蔵技術の向上が組み合わさっている。後者により無駄になる産品が少なくなり、より多くのリンゴが市場に出回るようになる。供給は増え続けているが、需要は良くてもせいぜい横ばいである。「業界全体として、消費者に一貫したリンゴの食体験をうまく提供できておらず、それが大きな課題に繋がっている。」

今日、消費者には、リンゴ以外の食味の良い果実を購入する選択肢がこれまで以上にたくさんある。「生食用ブドウやベリー類などの業界は、風味が豊かで品質の一貫した品種の育種において目覚ましい進歩を遂げたが、リンゴは遅れをとっている。その結果、リンゴは他の果実との多くの競争にさらされている。」

減量薬

皮肉なことに、リンゴの中でも競争が生まれている。「赤色の品種が多すぎ、マーケティングは非常に縦割りで出荷業者ごとに異なる結果、業界内に不必要な競争が発生している。」 業界内外の競争に加えて、3番目の課題は減量のための糖尿病治療薬の台頭である。これらの薬は血糖値をコントロールするだけでなく、空腹感を軽減し、全体的な食物消費量を減少させる。体重を減らすために薬を服用する人がますます増えると、リンゴを含め食品全体の消費量が減少する。

今年、ワシントン州のリンゴの収穫量は平年並みに近づくと予想されているが、有機栽培品の割合は増加しており、現在では州全体のリンゴ出荷量の約15%に達している。通常、有機リンゴの消費は1月または2月頃に増加する。その頃までには収穫が進み、地域のリンゴの販売は徐々に減少し始めている。地域の品種が棚から消えると、有機リンゴがより多くの棚のスペースを利用することが可能になり、その結果、消費量が増加する。

供給過剰であってもなくても、フォード氏は良いリンゴには常に市場があると信じている。それは、季節を追いかけ、高い品質と優れた風味を重視している同社がよって立つ柱の1つでもある。その結果、同社のワシントン州の事業は、今年で33年目を迎える南半球からの輸入プログラムによって補完されている。リンゴの出荷シーズンはアルゼンチン、チリ、ニュージーランドからの輸入に続き、初夏にはカリフォルニア州に移る。

ナシは供給不足

米国ではリンゴと対照的に、今年のナシの収穫量が非常に少ない。それは様々な気象現象によって引き起こされ、収穫量はこの40年間で最も少ない。主要な品種の生産量はすべて大きな影響を受けているが、フォード氏はこれが南半球の出荷シーズンに大きなチャンスを提供すると考えている。「このことによって、アルゼンチンは、2月中旬にウィリアムズバートレット品種で開幕する輸出シーズンに向けて良い位置を占めている。その頃には、南半球のナシが大いに期待されるようになるだろう。」

執筆者：マリーケ・ヘムズ

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）